

セントラルパークの天の池

結城文

セントラルパークのゆりの木四本が囲む

楕円の天の池

まだ完全に大きくなっていない嫩葉わかばが

レエスのように縁どる

薄青の池

何かが

そこから

宇宙にむかって昇天してゆく――

日常生活では

下を向いていることの多い首を

精一杯伸ばして

その池を見あげる

緑の木立の向こうは車の往来

克蘭クシヨンや走行音が

思いのほか近い

緑の窪みの木蔭には

乳母車の親子

思い出話の老夫婦

リモートコントローラーで

玩具の白帆を走らせる若い男女

アフガニスタンへ

イラクへ

いまだ派兵している国とはとても思えない

けれど さほど遠くない

タイムズスクエアでは昨日

爆発騒ぎがあったばかり

太平洋をわたって

十数年ぶりにここへきて見あげる

希薄さの――

とりとめもない天の池

嫩葉わかばがレエスのようにさざめき

一葉が風を捉えるとそれが次の葉に移り

やがて一枝の揺れは木全体の揺れになる

私の生の

貴重な幕間インターバル

セントラルパークの天の池